

今日のゴール

★ 取得から売却までの一連の仕訳が分かる

この授業で主に登場する勘定科目

- 建物 資産 借方 (左)
- 備品 資産 借方 (左)
- 土地 資産 借方 (左)
- 車両運搬具 資産 借方 (左)
- 減価償却累計額 評価勘定 貸方 (右)
- 減価償却費 費用 借方 (左)
- 修繕費 費用 借方 (左)
- 固定資産売却益 収益 貸方 (右)
- 固定資産売却損 費用 借方 (左)

SECTION 01

有形固定資産の購入

固定資産とは、長期にわたって使用するもののこと。そのうち形のあるものを有形固定資産という。

物品の分類

物品

- └ 売り物 → 商品
- └ 自分で使う
 - └ 長期 → 有形固定資産
 - └ 短期 → 消耗品

主に出てくる有形固定資産

土地・建物・備品・車両運搬具 など

取得時の計上

有形固定資産を取得したときは、取得原価をもって有形固定資産の勘定科目で計上する。

取得原価の計算

取得原価 = 購入代価 + 付随費用
 付随費用 = 使用までに要した費用 (引取運賃・据付料 など)

試験のコツ

固定資産の問題に費用らしきものが出てきたら十中八九付随費用。「その費用は固定資産のためにあるか？」と考える。

例題 | 備品の取得

問題

備品を600,000円で購入し、据付料30,000円を現金で支払った。

取得原価 = 600,000 + 30,000 = 630,000円

借方 (左)		貸方 (右)	
備品	630,000	現金	630,000

解説

据付料は付随費用のため、備品の取得原価に含める。

減価償却（決算整理）

減価償却とは、有形固定資産の劣化に対応させて資産を費用にしていこうこと（資産の費用化）。

減価償却する資産としない資産

減価償却する

時の経過で価値が減る

建物・備品・車両運搬具 など

減価償却しない

時の経過で価値が減らない

土地 など

減価償却の計算方法（定額法）

日商簿記3級では定額法が出題される。

定額法の計算式

1年分の減価償却費 = (取得原価 - 残存価額) ÷ 耐用年数

残存価額… 耐用年数が終わったあとに資産として残ると見込まれる金額

耐用年数… 資産を使用できると見込まれる年数（税法で定められた年数を用いることが多い）

期中に取得し、1年間まるまる使用しなかった場合は、利息の計算と同様に月割計算を行う。

減価償却累計額とは

減価償却によって資産の価値が減った分を累計で記録する勘定。貸借対照表上、当該資産のマイナス（控除項目）として表示される（評価勘定）。

帳簿価額 = 取得原価 - 減価償却累計額

例題 | 定額法・期中取得の月割

問題

備品（取得原価360,000円・残存価額60,000円・耐用年数5年）を10月1日に取得した。決算日は3月31日。当期の減価償却費は？

- ① 1年分 = (360,000 - 60,000) ÷ 5 = 60,000円
- ② 使用月数 10月～3月 = 6ヶ月
- ③ 当期の減価償却費 = 60,000 × 6/12 = 30,000円

借方（左）	貸方（右）
減価償却費 30,000	備品減価償却累計額 30,000

貸借対照表の見方

備品と減価償却累計額は、次のように並べて読む。

備品	360,000
減価償却累計額	▲ 30,000
帳簿価額	330,000

月次決算

多くの企業では年に1回数字を確定するのではなく、月次決算といい毎月金額を確定し経営判断に役立てている。

日商簿記3級では、11ヶ月分はすでに計上済みとして、残り1ヶ月分だけ自分で計上する問題がたまに出てくる。

例題 | 月次決算（残り1ヶ月分）

問題

備品（取得原価360,000円・残存価額60,000円・耐用年数5年）について、11ヶ月分の減価償却はすでに計上済み。決算日は3月31日。決算整理仕訳を記入せよ。

- 1年分 = (360,000 - 60,000) ÷ 5 = 60,000円
 残り1ヶ月分 = 60,000 ÷ 12 = 5,000円

借方（左）	貸方（右）
減価償却費 5,000	備品減価償却累計額 5,000

固定資産の売却

売却損益の計算

売却額 - 帳簿価額 = 売却損益

プラスなら固定資産売却益、マイナスなら固定資産売却損を計上する。

帳簿価額を自分で計算できるかどうか論点となる。

帳簿価額の計算

帳簿価額 = 取得原価 - 減価償却累計額 - 当期の減価償却費

※期中に売却した場合、当期分の減価償却費も差し引く。

例題 | 備品の売却 (売却益)

問題

備品 (取得原価600,000円) を売却。減価償却累計額350,000円、当期減価償却費50,000円を計上済み。売却代金250,000円は現金で受け取った。

帳簿価額 = 600,000 - 350,000 - 50,000 = 200,000円

売却損益 = 250,000 - 200,000 = 売却益 50,000円

借方 (左)

現金	250,000
備品減価償却累計額	350,000
減価償却費	50,000

貸方 (右)

備品	600,000
固定資産売却益	50,000

修繕

有形固定資産の修繕をしたとき、次の2つの考え方が出てくる。

収益的支出

現状維持のため

修繕費 (費用) で計上

資本的支出

価値を増加させる

有形固定資産の勘定科目で資産計上

例題 | 修繕費と資本的支出

問題

建物の修繕に280,000円を現金で支出した。うち80,000円は壁の塗り直しであり現状を維持するための支出、200,000円はエレベーターの新設であり建物の価値を高める支出である。仕訳せよ。

80,000円 → 収益的支出 (修繕費)

200,000円 → 資本的支出 (建物)

借方 (左)

修繕費	80,000
建物	200,000

貸方 (右)

現金	280,000
----	---------

今日のまとめ

★ 取得から売却までの一連の仕訳が分かる

取得 → 取得原価 (購入代価 + 付随費用) で有形固定資産を計上

減価償却 → 定額法・月割。減価償却累計額は評価勘定 (貸方)

月次決算 → 11ヶ月分計上済み。残り1ヶ月分を自分で計上

売却 → 帳簿価額を求め、売却額との差で売却益・売却損

修繕 → 現状維持は修繕費、価値増加は有形固定資産